

ふう ど けい
風土景

益子町ランドスケープ計画

益子の里山風景を未来につなげる





「道の駅ましこ」より北を見る



大塚朋之
益子町長

益子の風景

昨年のゴールデンウィークの時のお話です。春の陶器市で賑わう益子町内から益子町の南部に位置する「道の駅ましこ」に移動してみると、大変多くのお客さま。北側の芝生広場に目をやると、道の駅で貸し出しているゴザを敷いて、座ったり、寝そべったりしている方々でいっぱいでした。眺めているのは、眼前に広がる田んぼや山々。益子町民自慢の益子の自然・里山の風景です。来訪者の皆さまから、「益子の風景は宝物である」ことを改めて教えていただきました。

実は、宝物の風景は町内各地に沢山あります。そしてそれは「景観10年・風景100年・風土1000年」という言葉があるように、私たちの先人たちが幾多の逆境を乗り越えながら富の蓄積を繰り返し、引き継いでくれたものです。

このたび、50年後・100年後も大事にしたい益子町の風景・景観計画である「益子町ランドスケープ計画」を策定しました。

今後、「益子町ランドスケープ計画」を、行政、地域の企業・団体・町民皆で共有し、官民が一体となり、「益子の風景」を活かしたまちづくりに取り組みたいと思います。さらにルーラルツーリズムにもつなげ、地域経済の活性化や益子の新しい楽しみ方も協働で提案してまいりたいと思います。

策定にあたっては、町民代表の方々からのヒアリング、講演会や地域懇談会など、たくさんの方々からご意見やご協力をいただきました。ご協力いただいたすべての皆さまに心から感謝申し上げます。

風土景

ふうどけい

益子町 ランドスケープ計画

益子の里山風景を未来につなげる

益子町は関東平野の北に位置し、八溝山地からなる小高い山とその麓に広がる田畑、そして山地からのせせらぎが集まる小貝川が特徴的な風景を作り出しています。

この地形を活用した農業、この土から生み出された益子焼にまつわる産業、そしてこれらに支えられ、育まれた人々の暮らしや文化、歴史などがからまり合い、魅力的な風景を作り出しています。「益子町ランドスケープ計画」では、こうした魅力を保持し、未来へと受け継いでいくことを目指します。



山本・引地坂



上大羽・雨巻山への道

ランドスケープ計画とは

ランドスケープとは風景や景色を意味し、ランドスケープ計画は、風景を構成する多様な要素に目を向け、異なる分野による見解を重ねながら計画的な風景づくりを行うことです。

「益子町ランドスケープ計画」は、「ましこならではの住みたい価値をつくる」という新ましこ未来計画の目標、また「自然・伝統・交流の魅力に生き生き輝く豊かな暮らしの器づくり」をテーマとする益子都市計画マスタープランの下に位置付けられています。自然環境への配慮と歴史文化への尊重を考慮し、益子町第2次環境基本計画、益子町歴史文化基本構想、益子町緑の基本計画との関連性に重点を置きながら進めています。



蟹澤の井付近・芳賀富士を見る

益子とランドスケープ

「益子町ランドスケープ計画」では、暮らしの中で築かれてきた様々な風景の価値を再認識し、それらを最大限に活用することを試みます。益子の里山風景の要素として、全国的にも珍しい暖温帯植物と冷温帯植物が混在する植生が見られる高館山や雨巻山、暮らしと深く関わってきたコナラやアカマツの森林、川沿いに広がる田んぼ、ため池と谷津田、丘陵地の畑などがあげられます。また古代には地質と地理を生かした窯も築かれ、107個の指定文化財を含む多くの歴史文化も存在しています。さらに益子焼の産業が重なることで、唯一無二の風土を持った資源の循環からなる持続可能な風景がつけられてきました。このような益子特有な風景を「風土景」と称して冊子のタイトルとしています。

目指すもの

益子らしい風景をどのように次の世代に繋げることができるかを考える時期にきているといえるでしょう。

高齢化社会や後継者不足がもたらす農業人口の減少と耕作放棄地の増加、温暖化による高館山をはじめとする植生の変化、環境変化



小宅古墳群

による多発する自然災害、町木であるアカマツのマツ枯れ被害、町花であるヤマユリや農作物の獣害など、益子町の里山風景に影響がみられます。しかしながら、小宅古墳群の桜と菜の花、ひまわり祭り、コスモス祭り、花いっぱい運動、ましこアカマツ復活プロジェクトなど、町民の活動により従来の里山に新しい風景が生まれてきました。また、「道の駅ましこ」の誕生によって新しい産業やインフラ整備も進み、益子の風景は更新を続けています。

「益子町ランドスケープ計画」の役割は、様々な問題点を話し合いながら、各々の活動を結び付けるネットワークを形成し、益子町全体の風景を考える拠点となることです。

未来

10年後、50年後、100年後に繋げる風景をみなさんと思い描き、持続できる風景づくりを目標としています。

益子独自の特徴ある美しい風景づくりは、生活環境の向上のみだけではなく、現在注目され

てきているルール・ツーリズム(地域の資源を活用する体験型観光)の需要の拡大にも応えるでしょう。また、総務省の取り組みにもなっている関係人口(定住や観光以外で地域に関わる人々)の増加による地域づくりに繋がる可能性も持っています。

プロセス

「益子町ランドスケープ計画」は、急速な都市開発とは異なる方針を持っています。ゼロからのスタートではなく、現在、そして過去の風景から保存活用すべき価値を見出し、認識、共有し、持続していきます。

調査を通して現状の風景を「里山資源、文化背景、生活環境」の3つ視点により分類し、すでにある資源を生かすため、必要最小限の介入を行い、最大限の効果を得られることを目標とします。このような取り組み方は、環境的、経済的負担の軽減にもつながることでしょう。



いかす 「里山資源」

山、川、田畑

植生や生態系の保全のみならず、自然災害への対策を考慮しながら、暮らしと共にある持続可能な循環型風景をつくり、その活用を目指します。



町の東に連なる八溝山地は農地に水をもたらす水源であり、信仰の対象であり、レジャーの受け皿であり、芳賀富士や雨巻山のような町のシンボルも擁しています。林業従業者が減少してしまった現在でも、益子町の山や森には計り知れない可能性が潜んでいます。山から平地に抜けた途端、目の前に里山の風景が広がる体験も、益子町ならではの大きな魅力です。傾斜地ゆえ生産目的の利用が難しく、ソーラーパネルの設置なども見られますが、数値では計り得ない

価値を大切にしていくことが重要です。山からの水はいくつもの水路を経て、小宅川、大羽川、百目鬼川、ぐみ川を流れ、そして小貝川に合流します。その脇には田畑が広がり、人間と自然環境の緊密な関係が作り上げる、「里山」と呼ばれる風景をもたらしています。河川整備や農業を取りまく環境の維持は里山の魅力を失わないために重要であり、安全性能や経済性、効率性を超えた価値の共有が重要だといえます。



とりくむ 「文化背景」

文化、歴史、
窯業

史跡、窯業や文化の拠点とその周辺の整備を自然環境に合わせて行うことで、より生活に身近な文化的風景づくりを目指します。



益子町には、本沼、原、栗生にて奈良・平安時代に須恵器を焼いていた窯の史跡が点在しており、古くから風土の大きな構成要素である「土」や、そこから発達した窯業とともに人々の生活があったことがわかります。現在においても益子焼は町の中心的な産業のひとつであり、60万人の来場者を誇る陶器市は町の大きなイベントとなっています。町内には粘土の採掘場、芦沼石採石場、登窯など、窯業と関わりの深い風景が点在していますが、しかし益子焼の変遷に伴っ

て場所によってはその役割を終え、風化が進んだり、認知されにくくなっているものがあることも事実です。常に町とともにあった窯業の史跡や町の産業を支えた証である益子焼。これらと深く関わる場所や設備などに改めて手を入れ、埋もれてしまったもの・埋もれかけているものを、町の過去と未来をつなげる遺産として風景に刻んでいくことには大きな意義があるといえます。



みがく 「生活環境」

交通、地域活動、
公共空間、建築

歩行者と自転車利用者にとっての安全な道づくり、地域活動との繋がり、公共空間の在り方などを考慮し、豊かな生活環境づくりを目指します。

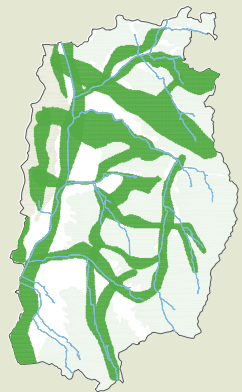


「道」は古くから町の生活を支える重要なインフラです。かつての街道や農道は人力での移動が中心でしたが、現代の道には徒歩・自転車・自動車など、様々な移動速度が混在しています。利便性と安全性を両立させつつ、日常生活の中に風景との関係を作り出すためには、徒歩や自転車が安心して通行できる道の整備を周辺環境とともに検討していくことが重要です。その際、道路沿いを彩る花いっぱい運動のような活動、河川や水路・公園などの公共的空間など

は、速度の遅い移動を豊かなものとする大きな要因と捉えることができます。

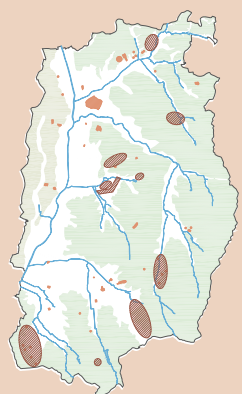
また、益子町には、様々な伝説とともにある社寺仏閣、多くの民家、大谷石の蔵や長屋門、タバコの葉を乾燥させるベーハ小屋など、多くの建築物があります。それぞれが地勢や産業・歴史・文化をまとうもので、町の景観を形成する重要な要素となっています。これらの利活用方法を検討していくことも、風景をつなげていく上で大切なことだといえます。

グリーンベルト計画



里山資源を活かした環境を
町全体へつなげます。

ルーツリンク計画



窯業・歴史文化を生活や
観光へ取り込みます。

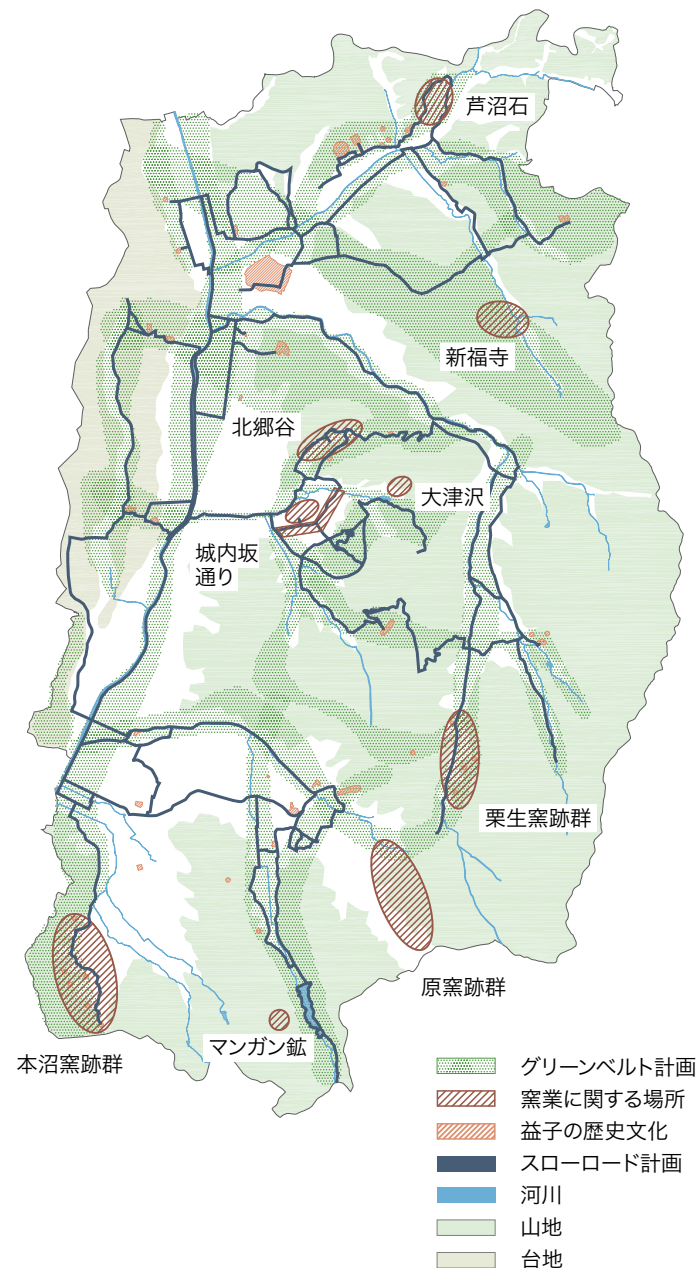
スローロード計画



安全で風景を楽しめる
道をつなげます。

「グリーンベルト」・「ルーツリンク」・「スローロード」を新しく計画することで、山地、河川、田畑といった益子の里山を形成しているもの、そして歴史と窯業といった文化を形成してきたものなど、益子町の豊かな資源を紡いでゆきます。

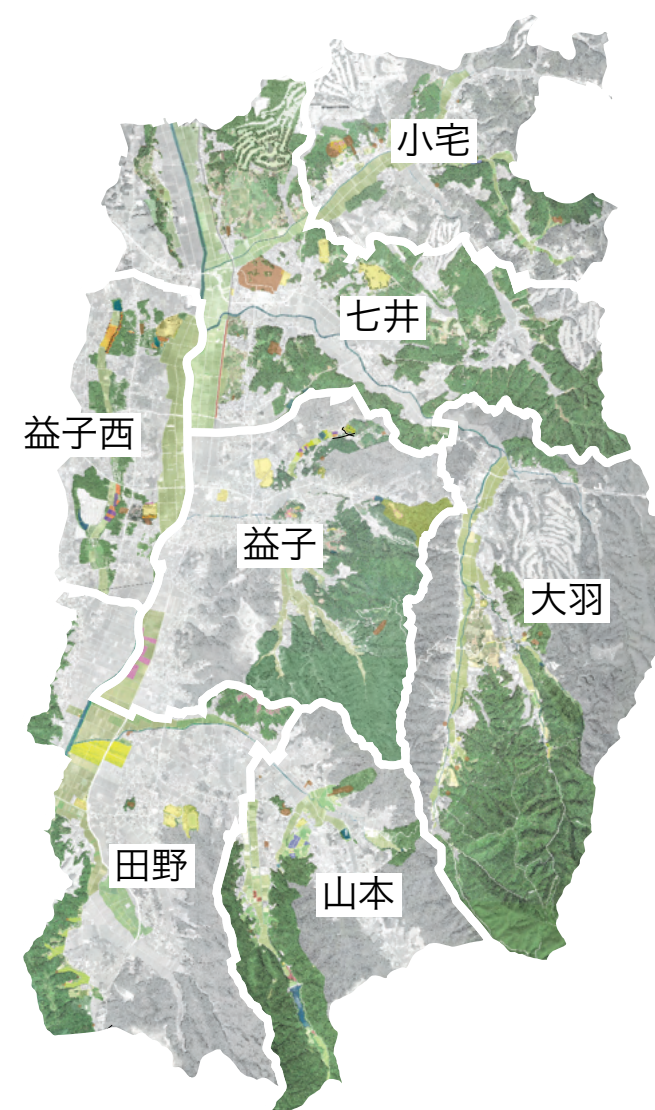
調査を通して、各々の対象地における「保存活用すべきもの」を再確認し、そこへ「整備するもの」や「新しくそえるもの」を組み合わせながら、風景的価値を高めるための提案を行ってゆきます。



7地区におけるランドスケープ計画

一言で「益子町」といっても、その風景は多様です。そこで、旧小学校区の境をもとに益子町を7地区 (小宅・七井・益子西・益子・大羽・田野・山本) に分け、まずはそれぞれの地区ごとに調査を行うこととしました。

各地区を車や自転車、徒歩と、様々な速度で走り回り、歩き回り、それぞれどんな風景があるのか、そこにある生活はどういったものか、などに目を向け進めました。



小宅：小宅古墳群



七井：円通寺



益子西：西谷の田んぼ



益子：益子の森



大羽：綱神社



田野：「道の駅ましこ」



山本：ペーハ小屋

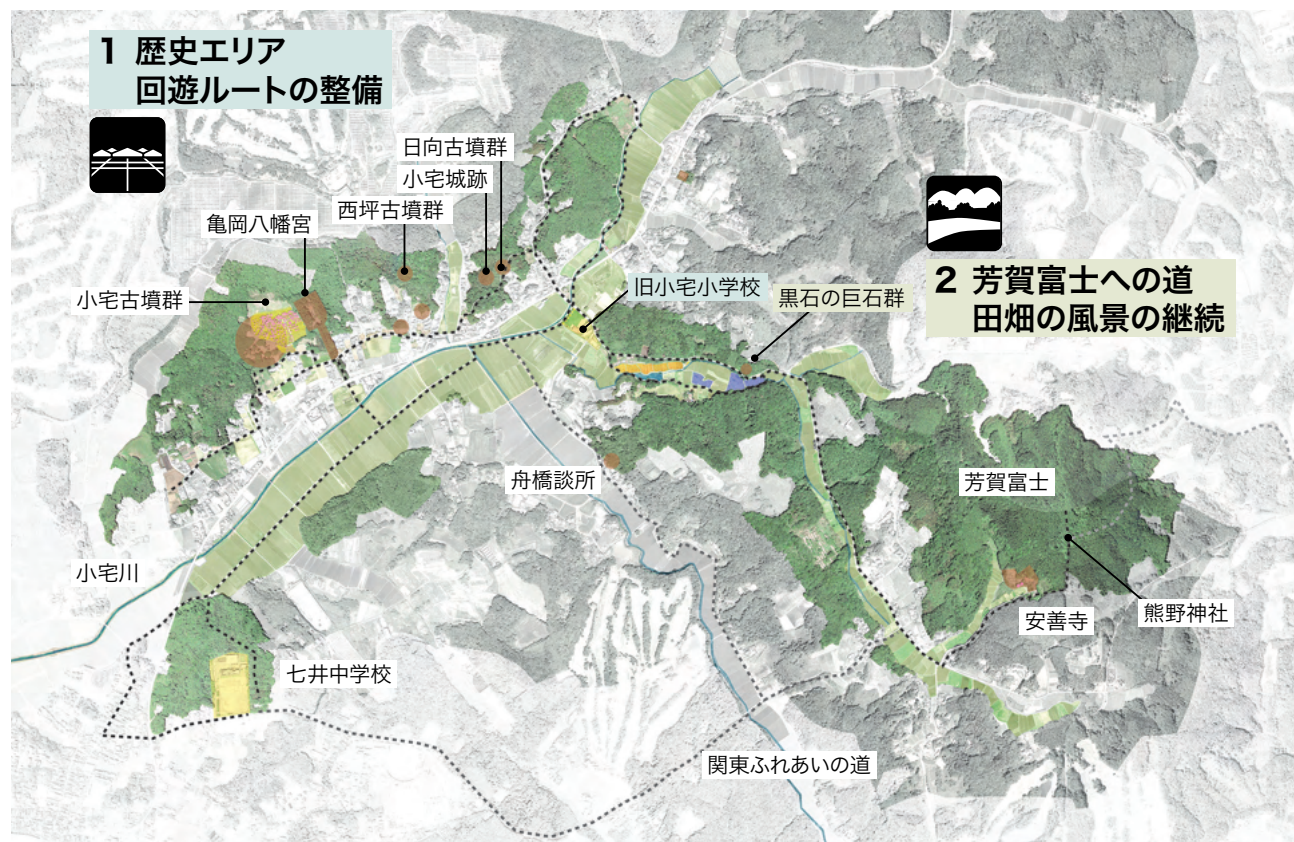


小宅川付近・農道より芳賀富士を望む

小宅川北側には小宅古墳群、西坪古墳群、小宅城跡など多くの史跡、また益子焼の釉薬の原料である芦沼石の採石場跡地があり、歴史と産業の風景が連続しています。小宅古墳群の春は、桜と菜の花の風景として知られ、また古墳群の丘からは芳賀富士の美しい日の出を望むことができ、古墳時代からの風景の連続を感じることができます。小宅川南側は、芳賀富士へ向かう道に沿って原風景ともいえる美しい田んぼが続き、黒石の巨石群を通り、安善寺のシダレ桜まで続きます。また秋には稲穂や紅葉する雑木林の景色が芳賀富士まで誘います。



大平・安善寺へ向かう谷津田



1 小さな拠点から大きな繋がりへ | 小宅川と旧小宅小学校

数々の古墳群と史跡、広大な田畑と長細い谷津田の風景、小宅川や水路。旧小宅小学校を拠点として、川へのアクセスを見直し、これら豊かな資源と様々な地域の繋がりや活動を結ぶ「スローロード」（散歩道と自転車道）を整備する提案です。

2 ホタルとアヤメを初夏の風物詩へ | 大平

谷津田が連なる美しいこの場所では現在もホタルが見られます。耕作放棄地活用のひとつの例として、アヤメを栽培し水辺環境を整え、ホタル生息の良好な地として持続させる提案です。アヤメやホタルを鑑賞するために設けられたスペースは、芳賀富士へ続く道の途中の休憩所としても利用できます。



七井



東西を繋ぐ大羽川と関東ふれあいの道、南北に走る小貝川と真岡鐵道、七井地区では2本の軸を読み取ることができます。七井中学校、北公園・北運動場を結ぶ関東ふれあいの道周辺やその北側では、かつて益子焼の窯焚きにも利用されてきた町木でもあるアカマツが豊富に存在

し、益子の風景を形成してきました。小貝川と真岡鐵道に並行する道は、益子町を南北に繋ぎ、周辺には北中八幡宮、風戸塚古墳や円通寺があり、さらに稲毛田台地の段丘崖下には「七井」の地名の由来とされる七つの井戸に含まれる「瀧の井」「蟹澤の井」も存在しています。



瀧の井



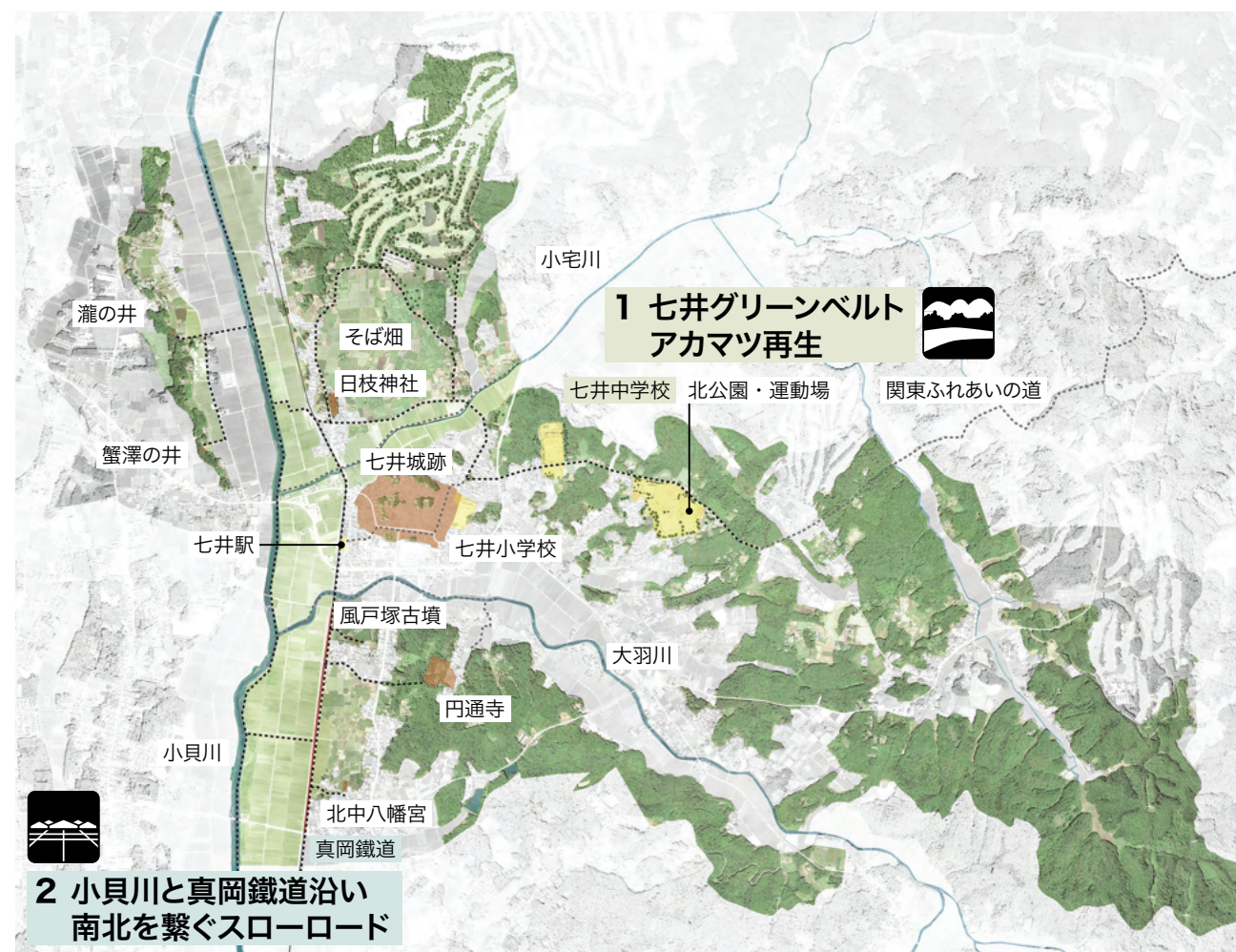
日枝神社北側のそば畑



七井中学校

アカマツ林再生計画

ヤマユリを育てる



1 七井グリーンベルト アカマツ再生



2 小貝川と真岡鐵道沿い 南北を繋ぐスローロード



1 アカマツから歴史と自然を学ぶ | 七井中学校
かつて薪材として窯業や生活に欠かせなかったアカマツは、益子町の町木として親しまれていましたが、松くい虫被害で多くを失いました。アカマツがわずかに残る七井中学校を「アカマツの歴史・環境体験学習の場」とし、将来的な町全体のアカマツ再生計画へと繋げていきます。

2 縦につなぐ風景 | 真岡鐵道と小貝川
真岡鐵道と小貝川に並行する安全な「スローロード」と施設の整備計画です。南北の軸を強化することで益子町全体を繋げ、また運動場、学校、施設、史跡等へのアクセスを容易にし、運動促進や歴史文化への興味を高めます。徒歩、ジョギング、自転車、SLを通しての里山風景を楽しめるルーラル・ツーリズムにも繋がります。



益子西

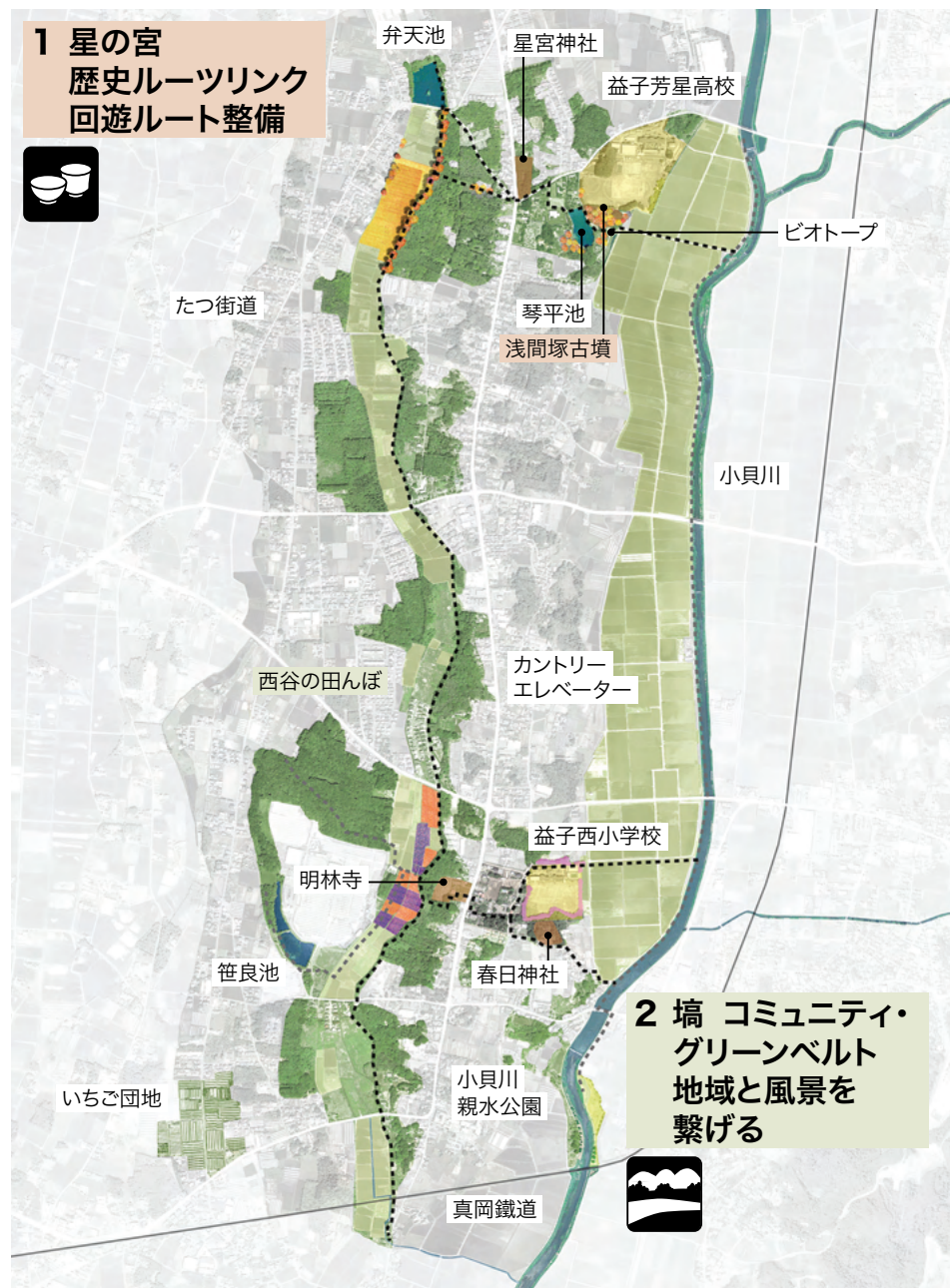
小貝川の西側に立ち上がる台地では、旧石器時代の埴遺跡、古墳時代の浅間塚古墳、奈良・平安時代の星の宮ケカチ遺跡にみられるように、古代より人々の暮らしに適した土地だったことがうかがえます。弁天池から南へのびる西谷の田んぼは星の宮と埴を繋ぎ、地域の特徴を語る上で貴重な風景とも言えます。また台地の縁からは、手前に小貝川沿いに広がる田んぼ、北東に芳賀富士、南東に雨巻山を望むことができます。また星宮神社や春日神社などの社寺仏閣、小学校や高校が近い範囲に集まっており、コミュニティを活かした地域づくりができる特徴を備えています。



益子西小学校の100本桜



J Aはが野 益子カントリーエレベーターの東側



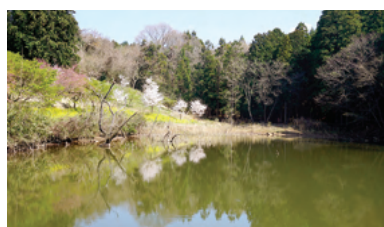
1 歴史を辿る散歩道 | 星の宮・浅間塚古墳

南北に連なる田んぼの景観の持続的活用を目的に、益子西地区の北に位置する弁天池から、星宮神社、益子芳星高校の敷地に残る浅間塚古墳や琴平池といった史跡を巡る「ルーツリンク」を整備する提案です。浅間塚古墳を進んだ先には芳賀富士への眺望が開け、ビオトープがあります。

2 育てる風景 | 埴・西谷の田んぼ

埴地区では耕作放棄地の活用法として、例えば、地域住民や益子西小学校との連携でハーブ園をつくり、子供達のための環境学習の場や地域外の人々との交流の場として役立て、さらにはハーブの加工など第6次産業への可能性も探る提案です。





円道寺池

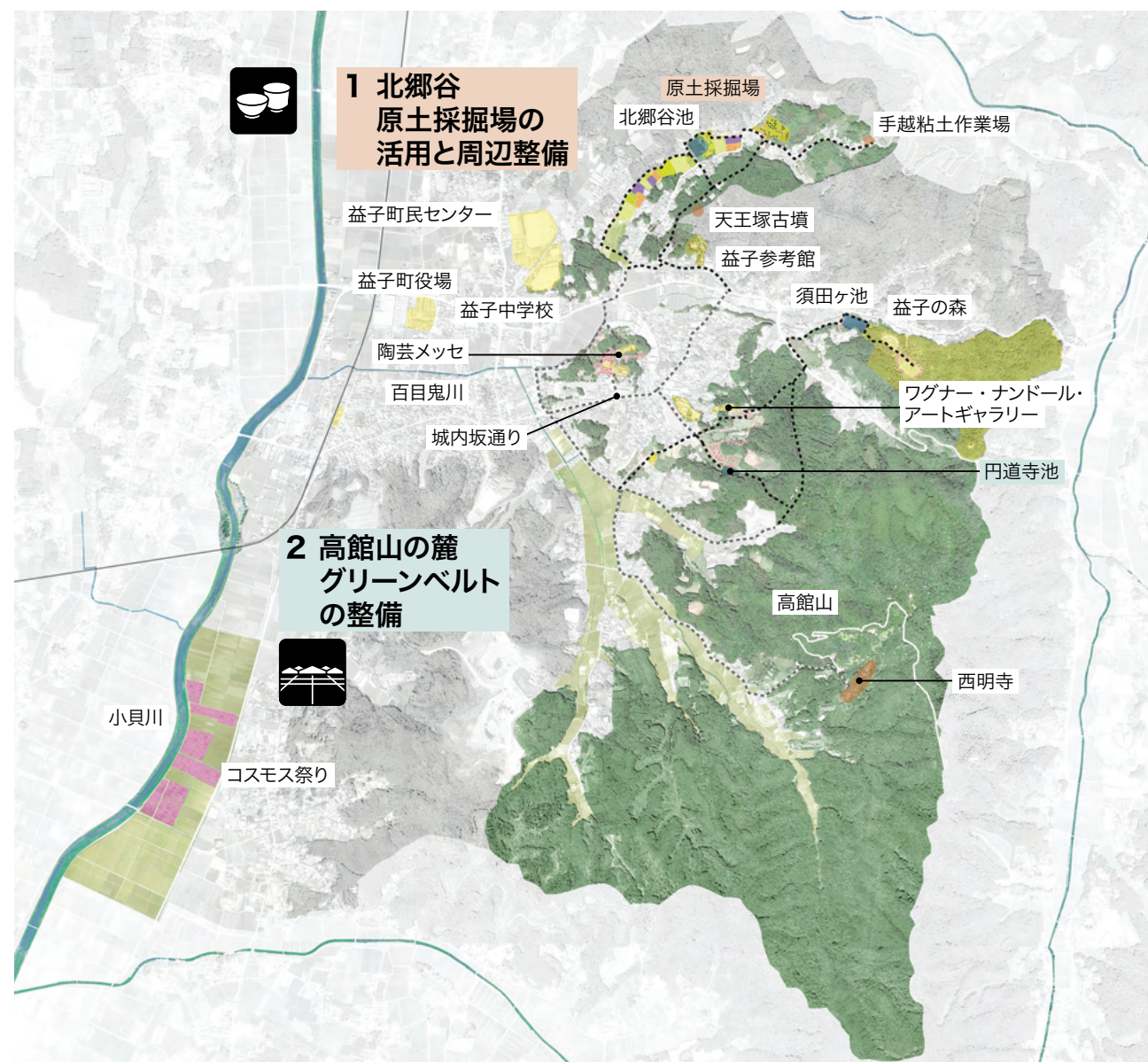


コスモス祭り

北郷谷の里山風景には自然と文化と歴史の要素が全て詰まっています。濱田庄司が近くに住処を構え、益子焼の原土が採掘される土地として知られ、ため池、谷津田、アカマツ林などによる暮ら

しの風景や天王塚古墳などの史跡も見られます。城内坂通りの南側は益子の象徴のひとつである高館山の麓に隣接しており、市街地と自然環境が交差する重要なエリアで、日常の暮らしの中で身近

に高館山の自然を感じ取れる場所です。円道寺池の桜や水芭蕉群、ワグナー・ナンドール・アートギャラリー、須田ヶ池そして益子の森などが点在し、四季折々を楽しめる環境が整っています。



2 高館山の麓をつなぐ | 円道寺池周辺

益子地区で一番の賑わいがある城内坂通りから一步入った所に、地元の方々が長い時間と手間をかけて整備した桜と水芭蕉の美しい円道寺池公園があります。高館山の豊かな自然を感じながら、円道寺池を中心に、一の沢、ワグナー・ナンドール・アートギャラリー、須田ヶ池、益子の森、といった地域のシンボルを繋ぐルートの提案です。

1 窯業の記憶を継ぐ | 北郷谷原土採掘場

益子焼の原点である原土が豊富に採掘され、益子の風土が凝縮された土地です。記憶の継承として採掘場跡と水簾の場を整備し、周辺の自然環境や史などと繋げていく長期的な計画です。散策路の整備、アカマツなどの植栽計画の他、すり鉢型採掘場跡や原土を積んだ凸凹な地形の名残を留めた広場や遊び場を計画します。催し物会場としての利用も期待できます。



大羽



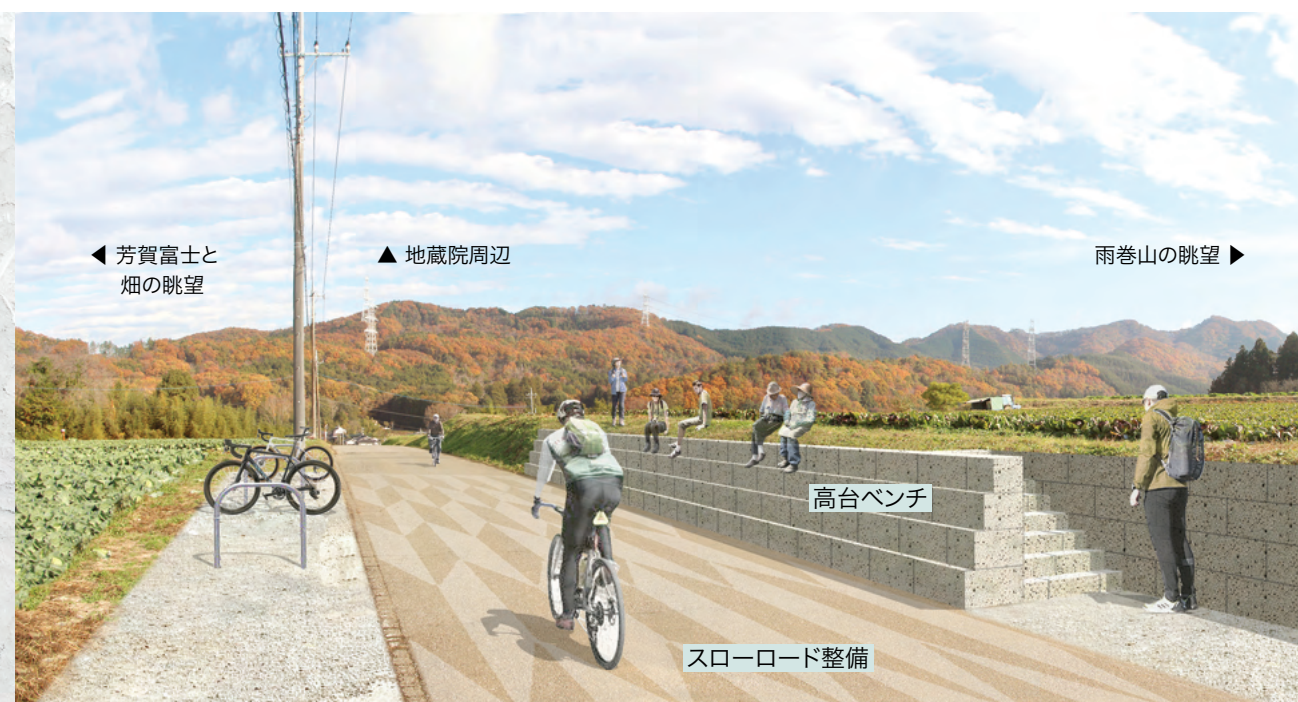
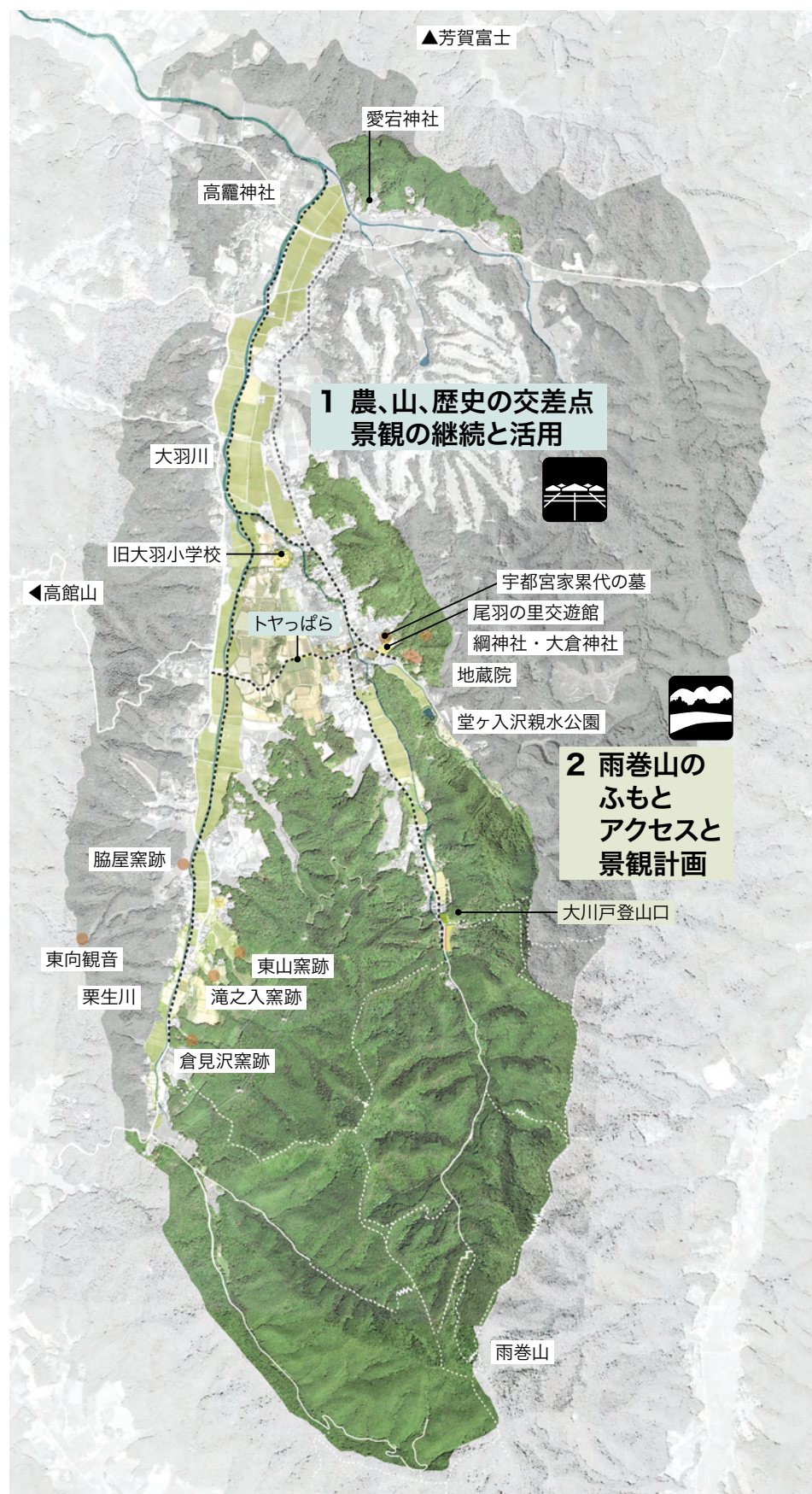
大羽川と栗生川を頼りに雨巻山の谷筋に細く形成された大羽地区では、地蔵院本堂、綱神社本殿、大倉神社本殿といった国指定文化財や宇都宮氏にまつわる多くの史跡から歴史を知ることができます。栗生には町指定史跡である古代窯が複数存在し、倉見沢古代窯跡は世間遺産にも登録されています。また、ブナなど貴重な植生が見られる雨巻山は、登山客の増加やトレイルランニングの大会開催もあり、町外にも広く知られるようになりました。地形と歴史、地域活動やスポーツといった要素が重なり合い自然・歴史・生活が織りなす風景があります。



トヤッぱらから北を望む



東山窯跡周辺



1 風景が交差する高台 | トヤッぱら

高館山と地蔵院を東西に結ぶ道は、山と谷を横断し起伏に富んでいます。高台では視界が四方に開かれ、北に畑と芳賀富士、南に雨巻山を望めます。この特別な場所に、土留とベンチの機能を一体化した見晴らしの良い休憩所を提案し、ここへ通じる道を「スローロード」として整備します。

2 期待を高める風景 | 雨巻山大川戸登山口

益子町最高峰である雨巻山登山口の整備計画です。雨巻山の自生植物を使った植栽計画を行い、樹木で駐車スペースを区切り夏場に日陰を作り、ヤマツツジなどで登山道へのアクセスを彩ります。また地図、植物、野鳥などの情報を提供する休憩所を提案します。





「道の駅ましこ」を拠点とした地域交流活動が活発に行われる中で、風景を楽しむためのルール・ツーリズムが定着する可能性が高まりつつあります。道の駅の北側では、益子の南北を繋ぐ小貝川と田園風景がダイナミックに広がります。また、ひまわり祭りやコスモス祭り（益子・生田目）の開催により、この地域が町内外に広く親しまれるようになりました。東側には、ぐみ川と集落の風景があり、かつてはアカマツ林であった前沢町有林は桜の名所となっています。新しい道路計画や圃場整備が進む道の駅南側の本沼地区では、山の麓に貴重な古代窯跡が複数点在しており、その保存と周辺の整備が望まれています。



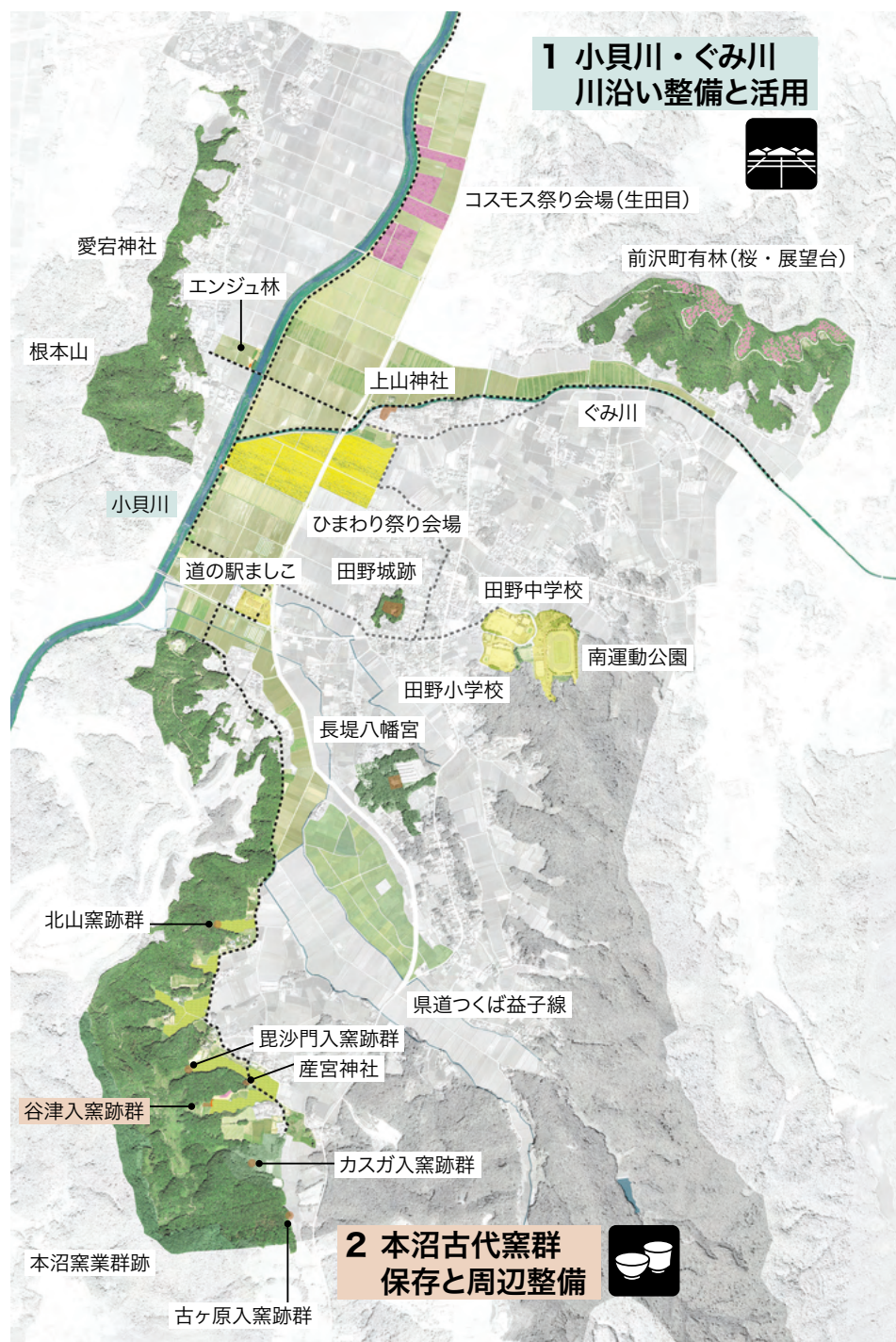
本沼窯跡群周辺



小貝川とエンジュの林



「道の駅ましこ」とひまわり祭り



1 川を主役に考える風景 | 小貝川沿い

人と川の関係を活かすための、川沿いの景観スポットとスローロードの整備計画です。ひまわり祭会場への川側からのアクセスや仮設の休憩所などの新しい拠点の他、エンジュの林、ぐみ川との合流地点など既存のランドマークを生かした景観スポットを活用することで、川を軸に町を繋げます。

2 姿を現す古代の風景 | 本沼の古代窯跡群

産宮神社周辺に点在する本沼窯業群跡のひとつ「谷津入窯跡群」の保存と周辺整備を行う提案です。産宮神社から始まる圃場整備区画と窯跡を遊歩道で結びます。現在は隠れてしまった窯跡のボリュームをリサイクル瓦チップなどで表現し、さらにデジタルツールを活用した歴史学習を模索します。





山本地区の風景は栃木県の「ふるさと田園風景百選」にも選ばれており、ぐみ川、田んぼと丘陵地の畑、その奥に見える八溝の山からなる美しい里山風景を見ることができます。八幡神社や縄文遺跡で知られる山居台からの景観は格別です。また、かつて葉タバコの乾燥のために使われたベーハ小屋が現在でも残っており、以前の里山風景を思いだし、懐かしさを感じます。山間の谷を南に進んだ大郷戸では、五輪塔やマンガン採掘跡などが存在し、その先の大郷戸ダム周辺は桜や紅葉が綺麗な場所として知られています。さらにダムの南側では、かつての谷津田を地域活動により農業景観として美しく維持されています。



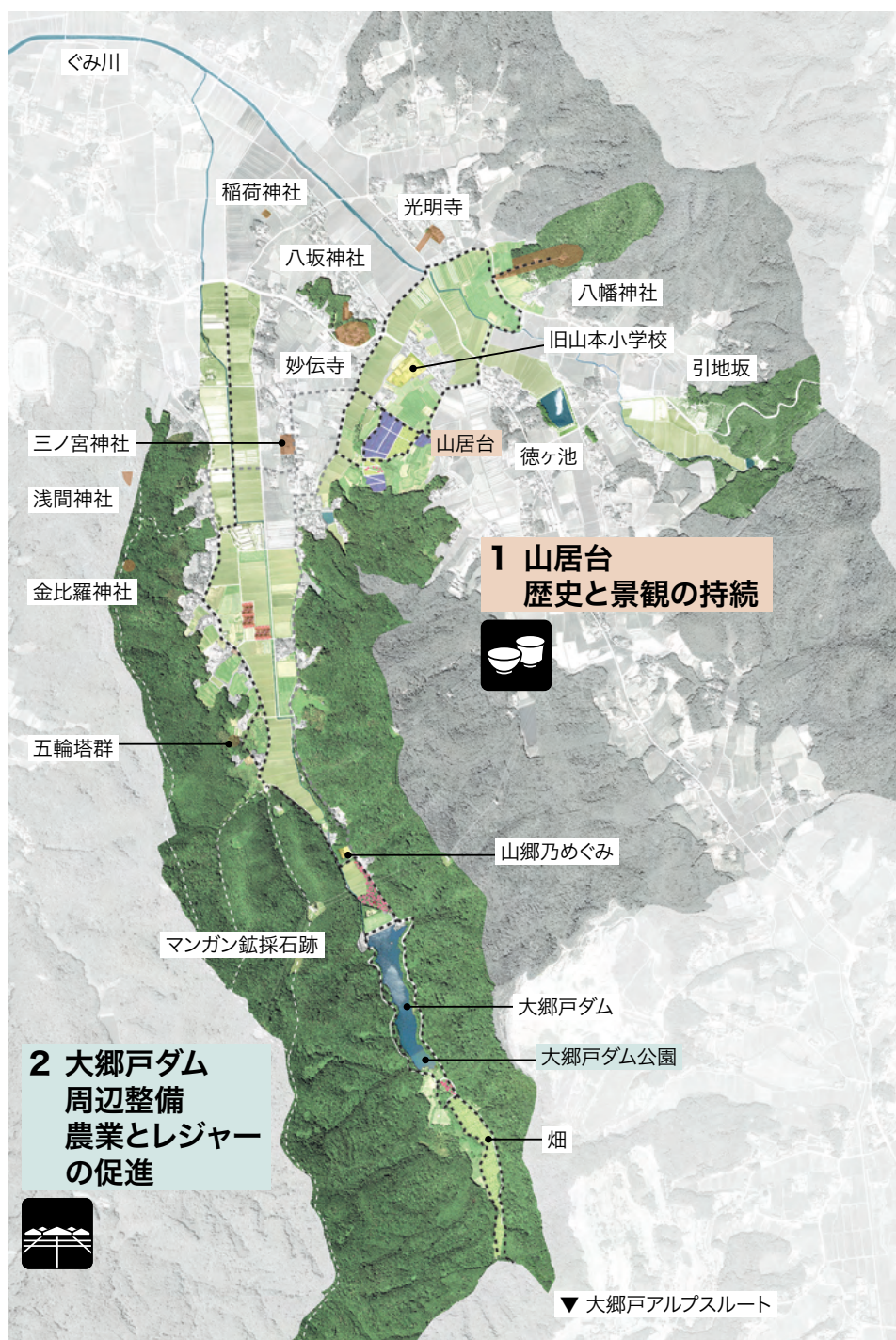
大郷戸ダム



八幡神社からの眺め



大郷戸への道



1 山居台 歴史と景観の持続



1 歴史が繋ぐ風景 | 山居台

山居台は、縄文遺跡からの人の営みによって積層された時間の層と、ダイナミックな地形と自然の層が複雑に重なり合うことで独特の風景が形成されました。散策路、休憩所、植栽計画といった新しい要素を加えることで、今の風景をより魅力的に、未来へ継承する計画を行います。

2 奥行きのある風景 | 大郷戸ダム公園周辺

山間部という地形上、狭く長く発展してきたこの地区は、谷津田、史跡、大郷戸ダム、親水公園、公共施設等が散在している印象を受けます。これら資源を快適に結ぶルートと、大郷戸アルプス登山ルートの拠点となる場を提案します。また、増加傾向にある休耕地や放棄地への対策のひとつとして、秋冬に放牧地として活用する案を提示しています。

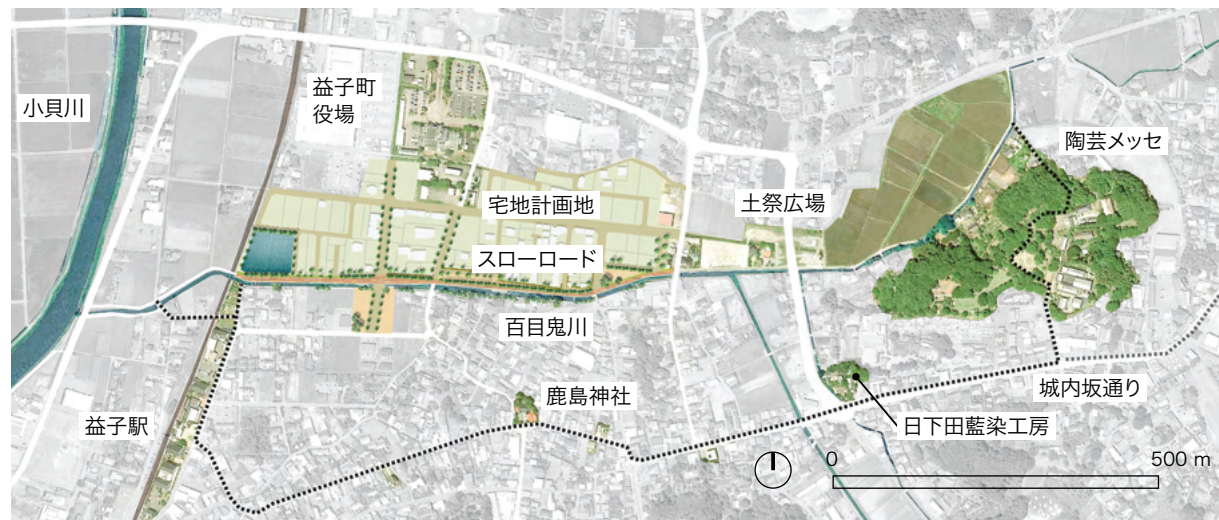


百目鬼川沿いの宅地計画

川と共に暮らす

令和2(2020)年から事業を着手する役場南側の宅地計画です。百目鬼川が暮らしに潤いを与える重要な要素となるように、安全と環境に配慮しながら護岸を整備し、水質環境を整え、水辺空間の活用を提案します。

必要な緑地面積を川沿いに集めることで、川
辺、道、緑地を合わせた空間をより快適に有効に
活用できます。緑地スペースは憩いの場や子供の遊



び場として利用され、催しがある時は仮設テントが並べられる多目的スペースにもなります。また川沿いに広いスペースを用いることは水害対策にも役立ち、災害時には緊急車両の乗り入れも可能となります。川沿いの道は歩行者の安全を優先し、車両通行を禁止するスローロードとし、益子焼をイメージできる色彩や素材を使用して舗装します。益子駅、宅地計画エリア、陶芸メッセを繋ぐ百目鬼川沿いのルートを生み出す役割も担います。

川沿いと緑地の木々、垣根、そして庭木が繋がる
植栽計画を行うことで、この宅地全体がひとつの森
のように成長して行くことでしょう。

今後について

平成30(2018)年4月から2年間にわたり、「益子町ランドスケープ計画」では、各地区の町民の方々との勉強会やヒアリングを通して頂いた貴重なご意見や情報を考慮しながら調査と計画を行ってまいりました。

この冊子では、本計画の提案の一部を紹介しています。数年後に実現可能な例もあれば、数十年先の例もあります。また、耕作放棄地や休耕地の問題、河川沿いの活用、スローロードの整備などは益子町全体における共通のテーマとして考えられています。

今後は、本計画を実行する上で、引き続き町民の方々に参加いただき、地域活動団体との連帯を深め、さらに多様な専門的意見を共有できる場としてランドスケープ評議会を設けます。産官学民の連携により持続的に計画が進められることを目指します。



北郷谷原土採掘場見学会



大羽地区・意見交換会



大学合同ワークショップ



田野地区・意見交換会



ワークショップ発表会



小宅地区・意見交換会



益子町ランドスケープ計画	
基本計画	小嶋芳秀、小嶋香 (KOBFUJI architects) 伊藤暁 (東洋大学)
計画担当	小林亮介 (coba 設計) 宇野泰弘 大槻直矢 河田祥 木村晃大 益子直也 卯木佑佳 坂元幸之助 白井雅人 曾根大嗣 藤宇飛 富澤一輝 永田伊吹 比嘉祐哉 吉永慧理夏フェランダ 渡邊雅大 (東洋大学ソーシャルデザインスタジオ)
アドバイザー	徳永哲 (東京大学生産技術研究所リサーチフェロー)
協力	藤原愛
参加メンバー	青木亮太郎 穂本翼 安喰涼花 池田匠 植竹淳史 大沼未季 尾沢拓洋 勝部直人 菊池悠太 菊地真祐子 木村透 小佐野幹弘 櫻井優輔 櫻田華子 杉浦雄一郎 戸張純 豊田祐 根津慶之 埜田太一 芳賀言太郎 福田翔万 本野絵里湖 宮脇友哉 宗田あかね 森川将雄 八木美由樹 矢部嵩晃

益子町ランドスケープ計画

2020年3月発行

発行 益子町

制作 小埜芳秀、東洋大学ソーシャルデザインスタジオ

写真 鈴木淳平 (表紙・ドローン撮影)、小埜芳秀、小林亮介、
藤原愛、東洋大学ソーシャルデザインスタジオ

デザイン 坂本知子 (spread)

印刷・製本 益子印刷

© 2020 益子町ランドスケープ計画

この計画書は著作権法によって保護されているものです。したがって、著作権を有する益子町の許可なく、この計画書の全部又は一部について、使用又は利用もしくは改変することは固く禁じられます。



問合わせ先

益子町産業建設部建設課 〒321-4293 栃木県芳賀郡益子町大字益子2030

Tel.: 0285-72-8842 Fax: 0285-72-6393 Email: kensetu@town.mashiko.lg.jp